光明皇后ゆかりのまち

法華寺町（ほっけじまち）

町名題字：第45世法華寺門跡　久我 高照
挿　　絵：上総 嘉章

まちづくりマップ

光明皇后ゆかりの法華寺町

光明皇后ゆかりの法華寺町には、平城宮跡に隣接し、多くの国宝・重要文化財を有する法華寺、海龍王寺や宇奈多理坐高御魂神社があります。

また、宇和奈辺・小奈辺古墳や磐之媛命陵をはじめとする佐紀盾列古墳群など、数多くの歴史的文化財に囲まれ、おのずと多くの文人にも愛されてきた町です。

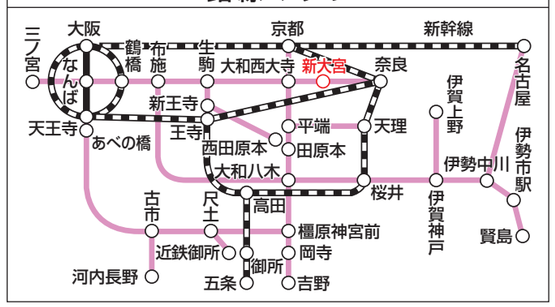
平成22年には広大な平城宮跡に大極殿が復元され、法華寺町から平城京の往年の雄姿を垣間見ることができます。このように、私たちの郷土「法華寺町」は、創建当時から止まらぬ時間を刻み続け、清らかな空気に包まれて建つ光明皇后ゆかりの法華寺や海龍王寺と深く結ばれています。

「光明皇后御影」林屋拓蒻

お守り犬（表紙左上の絵）

昭和26年の法華寺本堂解体修理の際に、礎石の脇からお守り犬1体が発掘されました。法華寺草創の頃、光明皇后が護摩供養された灰と山土とを混ぜて、手作りでお守り犬を作られ、病苦・災厄・難産などを除かんとのご誓願によって、あまねく結縁の人に授けられたのが始まりです。今も尼僧の修業の一環として手作りされ、一般の人にお守りとして授与されています。

路線マップ



協働によるマップづくり

■奈良県では、地域資源を再発見するため、マップづくりを行っています。平成22年度は次の2地区で作成しました。

法華寺（奈良市）　岡（明日香村）

■このマップは、「法華寺むらづくりプロジェクト」と「なら・まちづくりコンシェルジュ（奈良県）」が協働で作成しました。
■平成23年（2011年）3月発行
■問い合わせ先:
法華寺むらづくりプロジェクト（TEL 0742-33-7622）
奈良県地域デザイン推進課（TEL 0742-27-5433）

文豪に愛されてきた法華寺町

多くの文豪・歌人たちも、この法華寺町を訪れ、古を偲び、歴史のロマンを感じ取り、情熱を込めてその印象を以下のように綴っています。

＜法華寺＞

◆和辻哲郎は『古寺巡礼』の中で、
法華寺の十一面観音について、以下のように記しています。

**「…まずその光った眼と朱の唇とがわれわれに飛びついて来る。豊満な顔ではあるが、何となく物凄い。
…胸にもり上った女らしい乳房。胴體の豊満な肉づけ。その柔らかさ、しなやかさ。
…しかし、その美しさは、天平の観音のいづれにも見られないやうな一種隠微な蠱惑力を印象するのである。」**

◆会津八一は、
「ふぢはらの　おほきささきを　うつしみに　あひみるごとく　あかきくちびる」と詠んでいます。

◆杉本苑子は『私の古寺巡礼』の中で、この地について、以下のように記しています。

**「…奈良の占める比重は仕事の上で大きく、私の意識 ばかりでなく身体ぜんたいを、平城宮趾に運ばせる機会が多い。
…訪れればしぜん、吸い寄せられでもするように足は法華寺へも向いてしまう。
…佐保路に佇って、不比等の第宅跡と称する法華寺の甍を望み、
…幾度おとずれ、いつ、おとずれても、尽きることのない興趣の渦へ私を巻きこむ。また、行けばかならずささやかな発見があり、新しい収穫が得られるのも、この土地ならではのよろこびであろう。…」**

重要有形民俗文化財　浴室（からふろ）
病人や貧者の救済に尽力された光明皇后は『我自ら千人の垢を去らん』と「千人施浴発願」され、貧者や病人に施浴を行った。

＜海龍王寺＞

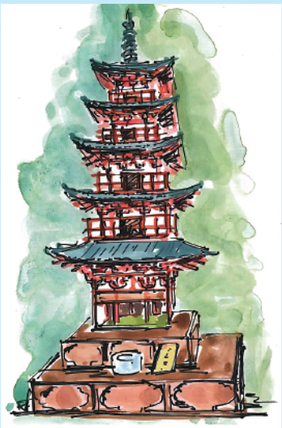
◆堀辰雄は『大和路・信濃路』の中で、海龍王寺について、以下のように記しています。

**「そう、もうかれこれ小一時間ばかり、此処でこうやって過ごしている。
女の来るのを待ちあぐねている古の貴公子のように、われとわが身を描いたりしながら。・・・」**

◆会津八一は、西金堂を見つめて、
「しぐれのあめ　いたくなふりそ　こんだうの　はしらのまそほ　かべにながれん」
と詠んでいます。

◆みうらじゅん（イラストレーター）は、
週刊文春の中で、以下のように記しています。

「海龍王寺の仏像といえば、本尊の十一面観音がお勧めです。金泥独特の鈍い金色で塗られた全身と、朱や丹、群青、緑青などの差し色のコントラストが見事だし、天衣、腰布、首飾りなんかの装飾品も凝ったつくりです。こんな傑作が国宝ではなく重文だというのも、逆に考えれば名作、名品の誉れ高い仏像がひしめく激戦区・奈良ではの現象でしょうね」



国宝　五重小塔
高さ 4m 。奈良時代の五重塔は、この小塔一基しか残っておらず、価値が高い。

法華寺領

法華寺領（1.2km×1.5km、50万坪）は、北の端は、宇和奈辺・小奈辺両池を包含し、阿弥陀浄土院跡を南限とし、東は一条通りのJR線踏切近くに東大門があったと云われ、東大寺の転轉門と対峙していました。（そこを境に法華寺町と法蓮町を区分）。現在の一条高校前の梅檀の木跡は、法華寺の鳥居があった場所と言い伝えられています。西端は、平城京の東院庭園（藤原不比等の屋敷跡）までという広大なものでした。

一条高校前の今昔

昭和20年代後半（奈良市写真美術館より）

現在も栴檀の切り株が残っています